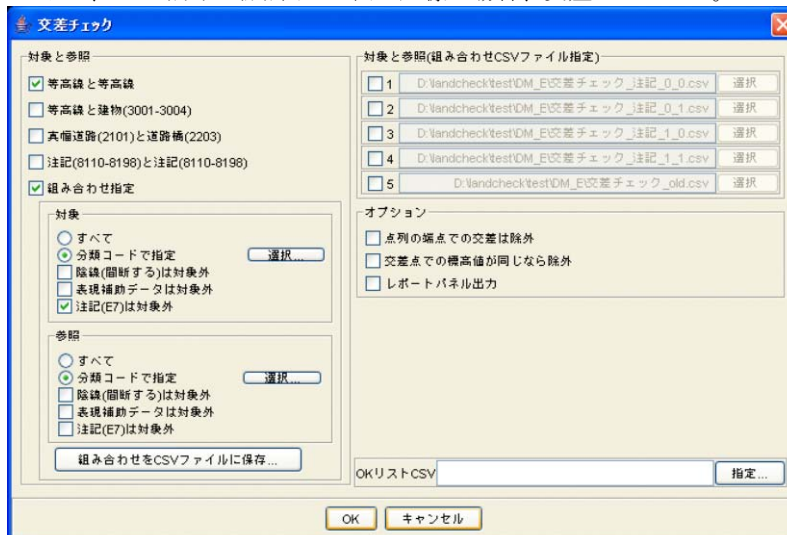


## 1. 交差チェック

[チェック]-[交差チェック]で等高線(E2)と等高線数値の注記(E7)の交差をエラーとして検出する問題がありました。等高線と等高線、等高線と建物、真幅道路と道路橋の組み合わせについては注記(E7)は対象外とするように変更しました。また、組み合わせ指定でも注記を対象外にするオプションを追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

面(E1)、線(E2)の線、注記(E7)の文字列を囲む矩形の交差および接触を検出します。要素が2次元か3次元を区別しないで、XY座標についてチェックを行います。等高線と等高線、等高線と建物(3001, 3002, 3003, 3004)、真幅道路(2101)と道路橋(2203)の組み合わせ、注記(8110-8198)と注記および任意の組み合わせでチェックします。等高線と等高線、等高線と建物、真幅道路と道路橋の組み合わせについては注記(E7)は対象外です。また、真幅道路と道路橋の組み合わせについては、道路橋で図形区分が表現補助データ(99)になっているものは対象外です。組み合わせ指定ではチェックする要素の分類コードと、参照する要素の分類コードを指定してください。同一分類コードで、かつ点列の端点同士が同じ座標の場合、交差としません。

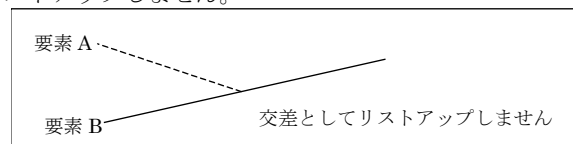


【注記(E7)は対象外】注記(E7)はチェックの対象外にします。

【組み合わせを CSV ファイルに保存】対象と参照の分類コードの組み合わせをファイルに保存します。内容は「15.6. 組み合わせファイル」を参照してください。

【対象と参照(組み合わせ CSV ファイル指定)】指定された CSV ファイルでの対象と参照の分類コードについて、交差チェックを行います。CSV ファイルの内容は「15.6. 組み合わせファイル」を参照してください。

【点列の端点での交差は除外】対象要素あるいは参照要素の点列の始点あるいは終点で接している場合、交差としてリストアップしません。



【交差点での標高値が同じなら除外】交差する要素の交差点での標高値が全て同じ場合、リストアップしません。河川と細流などの合流点でのZ値が一致していない場合などを検出できます。

3次元の要素と2次元の要素が交差している場合、ツールバーの[鉛直方向スケール]を0.00001にすると、全ての要素がほとんど同一平面上に表示されるので確認しやすくなります。

建物と建物の交差については[チェック]-[ポリゴンの重複チェック]を使ってください。

## 2. 組み合わせ CSV ファイル

組み合わせ CSV ファイルに項目「注記は対象外」を追加しました。以前の組み合わせファイルを参照した場合、中期は対象外は OFF になります。以下、説明書からの抜粋です。

[チェック]-[交差チェック]で、対象となる要素の分類コードと参照する要素の分類コードの組み合わせを CSV ファイルで指定できますが、その CSV ファイルの内容を説明します。

	A	B	C	D	E	F
1	分類コード組み合わせ	1				
2	対象:陰線は対象外	参照:陰線は対象外	対象:補助図形は対象外	参照:補助図形は対象外	対象:注記は対象外	参照:注記は対象外
3					1	1
4	対象\参照	7101	7101	7102		
5	7101	1	1	1		
6	7102	1	1	1		

1 行目はヘッダです。1 行 2 列はこのファイルのバージョンを表します。

2 行目は 3 行目のオプションの説明で、3 行目がオプションの設定です。空白の場合 OFF、空白以外の場合 ON です。

列	内容
1	対象要素について、陰線(間断区分=0 以外)はチェックの対象外にする
2	参照要素について、陰線(間断区分=0 以外)はチェックの対象外にする
3	対象要素について、図形区分が補助図形(=99)はチェックの対象外にする
4	参照要素について、図形区分が補助図形(=99)はチェックの対象外にする
5	対象要素について、注記(E7)はチェックの対象外にする
6	参照要素について、注記(E7)はチェックの対象外にする

4 行目の 1 列目はコメントで、2 列目からが参照する要素の分類コードです。分類コードの数に制限はありません。

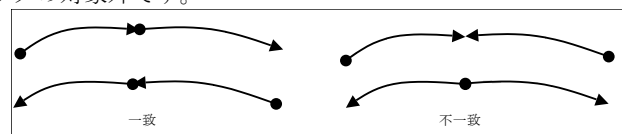
5 行目からがチェックの対象となる要素の分類コードとチェックするしないの指定です。

列	内容
1	チェック対象の要素の分類コード。4 桁の整数。
2 列目以降	空白の場合、チェックしない。 空白以外の場合、4 行目の分類コードで指定された要素を参照し、チェックする。

## 3. ネットワークチェック

[チェック]-[ネットワークチェック]で「点列の方向が不一致」を「点列の方向が不一致(分類コード別)」と変更し、「点列の方向が不一致(全体)」を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

**【点列の方向が不一致(分類コード別)】** 同一分類コードの線要素が端点で接している場合、点列の方向が一致していない端点をリストアップします。間断区分が設定されている線要素と設定されていない線要素のが接している場合もチェックします。閉じている要素、つまり始点と終点の座標が一致している要素はチェックの対象外です。端点で接していない場合、つまり、端点が別の点列の中間点(端点以外)と接しているケースはチェックの対象外です。



3 本以上の端点が集まって分岐になっている場合、判定しません。

長さが短い方の線要素を [チェック] リストに表示します。

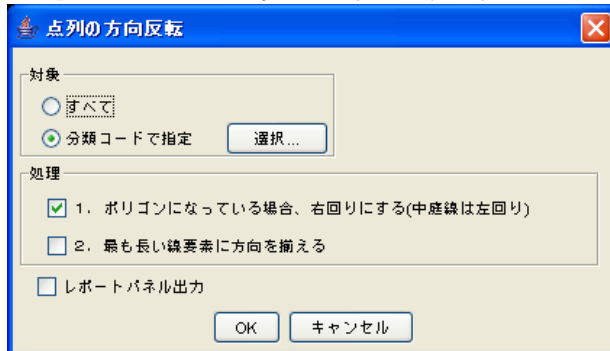
不一致を一括して修正するには、等高線については [チェック]-[等高線チェック] の [点列の順序 (TIN 参照)]-[点列の順序を反転する] を、その他は [一括処理]-[点列の方向反転] を使ってください。

**【点列の方向が不一致(全体)】** 選択された分類コード全体について、点列の方向が一致していない端点をリストアップします。例えば、真幅道路と庭園路を選択して、真幅道路と庭園路が接している端点での方向の不一致がリストアップできます。真幅道路・庭園路両方について、点列の右側が道路となる仕様の場合にこの機能で検査できます。他に、海岸線と河口線の組み合わせ(点列の右側が海部)の例もあります。

## 4. 点列の方向反転

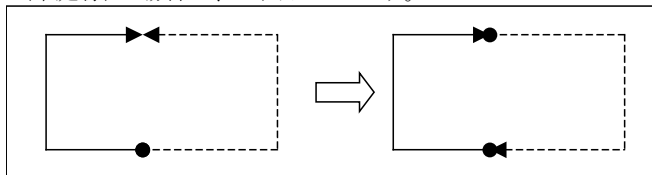
[一括処理]-[点列の方向反転]で、図形区分が 31(中庭線)の場合は、左回りにするよう変更しました。以下、説明書からの抜粋です。

面・線要素の点列の取得方向を反転させます。[チェック]-[ネットワークチェック]の[点列の方向が不一致]箇所を修正するための機能です。等高線については、[チェック]-[等高線チェック]の[点列の順序(TIN 参照)]-[点列の順序を反転する]を使ってください。図形区分が表現補助データとなっている要素は対象外です。



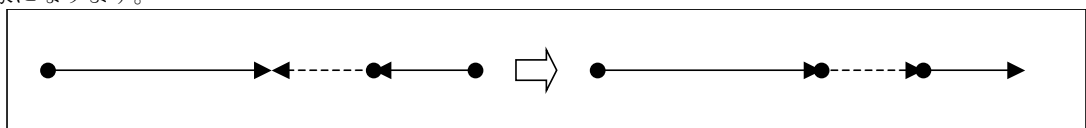
**【ポリゴンになっている場合、右回りにする(中庭線は左回り)】**

面要素あるいは線要素が閉じた図形つまりポリゴンになっている場合、右回りにします。複数の線要素が端点で接している場合も対象です。図形区分および間断区分が異なっても、同一分類コードならば、繋がっているとみなします。図形区分が 31(中庭線)の場合は、左回りにします。



**【最も長い線要素に方向を揃える】**

線要素が端点で接しているところで、点列の取得方向が異なっている場合、最も長い要素の方向にあわせて、他の要素の方向を揃えます。[ポリゴンになっている場合、右回りにする]が指定されている場合、ポリゴンになっていない組み合わせのみが対象です。[ポリゴンになっている場合、右回りにする]が指定されていない場合、ポリゴンになっている組み合わせも対象になります。



なお、線要素の点列の途中で分岐になっている場合、方向の判定ができないので、[チェックリスト]にリストアップします。分岐点から分岐点あるいは分岐点から端点までの経路が方向を揃える区間としています。

